



## 新生日本に期待

ようやくコロナ禍前の日常が戻りつつある今年 2023 年。スポーツ大会でも声出し応援が解禁され、多くのファンが球場やスタジアムに足を運んだようです。各種の世界大会も多く開催され、日本代表チーム、日本人選手の活躍に列島は大いに沸きました。3月の VBC では、侍ジャパンが 3 大会ぶり 3 回目の優勝。9 月にはバスケットボールのワールドカップで、日本代表はアジア 1 位で 2024 年パリ五輪の出場権を獲得（自力での獲得は 48 年ぶり）。11 月には MLB・エンゼルの大谷翔平がア・リーグ MVP（満票の 2 回目）。サッカー界の活躍にも大注目で、「森保ジャパン」は、史上最強の代表チームと言えるでしょう。直近では、MLBの来期以降に向けた FA 選手のトップテンの第一位に大谷、そして第二位に山本由伸が挙げられるなど、若い日本のアスリートの躍動ぶりが目を引きました。

さて、若い世代の日本人のうなぎ上りの高評価に比べ、いささか元氣なく見えるのが「日本経済」「日本企業」の国際比較を通して見た現状ではないでしょうか。例えば、世界最大のブランディング専門会社インターブランドは、ブランド価値評価ランキング「Best Global Brands 2023」を発表しました。

（注：「ホンダ」27位、「ソニー」36位）

順位	ブランド	出身国	2023 価値	順位	ブランド	出身国	2023 価値
1	アップル	米国	5026 億ドル	6	トヨタ	日本	645 億ドル
2	マイクロソフト	米国	3166 億ドル	7	メルセデス・ベンツ	ドイツ	614 億ドル
3	アマゾン	米国	2769 億ドル	8	コカ・コーラ	米国	580 億ドル
4	グーグル	米国	2602 億ドル	9	ナイキ	米国	537 億ドル
5	サムスン	韓国	914 億ドル	10	B M W	ドイツ	511 億ドル

本ランキングは、そのブランドが持つ価値を金額に換算してランキング化するもので、企業の財務成果、消費者の製品購入にブランドが与える影響、ブランド競争力などを総合的に評価するようです。株式の「時価総額」も大いに関係します。ちなみに 1989 年（平成元年）は日本企業が「世界時価総額ランキング」でのトップ 10 をほぼ占めていました。日本はちょうどバブル期を迎え、経済は絶頂期にあり、当時の全世界における時価総額トップ 10 は以下の通りでした。日本企業はまさに世界に冠たる存在だったのです。（1989 年当時）

順位	企業名	時価総額	順位	企業名	時価総額
1	NTT	1638 億ドル	6	IBM	646 億ドル
2	日本興業銀行	715 億ドル	7	三菱銀行	592 億ドル
3	住友銀行	695 億ドル	8	エクソン	549 億ドル
4	富士銀行	670 億ドル	9	東京電力	544 億ドル
5	第一勧業銀行	660 億ドル	10	ロイヤル・ダッチ・シェル	543 億ドル

その後バブル崩壊が起こり、日本の地価や株価が急落し、景気も急速に冷え込んでいきました。その後も長い不況が続き、2010 年頃には「失われた 20 年」、2020 年頃には「失われた 30 年」と呼ばれたりもしました。今年の 3 月末の「世界時価総額ランキング」では、10 位以内に巨大 IT 企業（GAFA）など 9 社の米国企業がランクインし、10 位以内に日本企業は見る影もありません。（日本企業トップはトヨタ自動車ですが、30 位以内にも入っていません。）上位から転落した原因は 30 年前には存在しなかった米巨大 IT 企業の台頭があり、日本企業のプレゼンスが非常に低下していることがわかります。

国際競争力を高める人材への投資・イノベーションの創出が企業に求められています。若い優秀な日本人の台頭が、飛躍のカギと思っています。

